

タイトル (40 字)

マイボーム腺機能不全 ～診療アップデートとケーススタディ～

英文タイトル (80 字)

Diagnosis and management update and strategy for MGD

ショートタイトル (15 字)

MGD 診療 update

発表順

有田玲子 (LIME 研究会, 伊藤医院, 東京大, 慶應大), 森重直行 (LIME 研究会, 山口大), 白川理香 (LIME 研究会, 東京大), 高静花 (LIME 研究会, 大阪大), 川島素子 (LIME 研究会, 慶應大), 崎元暢 (LIME 研究会, 日大), 鈴木崇 (LIME 研究会, 愛媛大),

抄録 (600 字) (現在 599 字)

マイボーム腺機能不全 (以下 MGD) は, ドライアイの主因 (ドライアイ全体の約 86%) であることが明らかになり, 国内外で注目が集まっている疾患である。高齢者だけでなく小児、青年期にわたっても患者数が増加しており、年々、その診断・治療方法が開発されている。Lid and Meibomian gland working group (LIME 研究会)では MGD における最新診断機器の紹介, 従来から行われている治療法にエビデンスを付加する“エビデンスベースの MGD 診療”をテーマに活動を行ってきた。

本コースでは過去 3 回のインストラクションコースをさらにアップデートしてマイボーム腺の最新診断法、明日から患者さんに勧められる MGD 治療にエビデンスを付加し、また最新治療法の可能性と限界、問題点まで多角的に解説したい。今回新たに、日常診療でよく経験しながら診断に苦慮する症例や、治療が無効だった症例を会場オーディエンスを巻き込み活発な討論をすることで、MGD 診療戦略への理解を深めたい。

MGD の診断法

1. スリットランプ所見 (Demodex の診断も含む)
2. マイボーム腺の形態観察
3. マイボーム腺の機能評価

MGD の治療法

1. ホームケア (温罨法、リッドハイジーンなどのマイボケア)
2. 点眼、内服、食事 (マイボトリートメント)
3. 最新機器を用いた治療

MGD ケーススタディ

診断、治療に苦慮した症例を会場のみなさんと一緒に検討する。

シラバス (1200 字) (現在 976 字)

(必要性, 意義) 現在の日本では, 高齢化社会に伴い **Quality of Life** が注目されている。一般外来において毎週外来を訪れ, 眼不定愁訴を強く訴えるマイボーム腺機能不全(MGD)患者に対し, いろいろな治療を試みるもなかなか満足を得られないことが多い。今回のコースでは, MGD のメカニズムから考えられる MGD の治療としてわかりやすく多くの写真や動画を用いて, このコースの受講者に, MGD の診断、治療について最新的话题をお届けする予定である。具体的には, 診断編として、**Demodex** の診断方法、非侵襲的マイボグラフィで見える形態所見の特徴、インターフェロメトリーで評価する油層機能をわかりやすく症例の写真、動画を提示しながら紹介する。次に治療編として自宅でのケアの有用性の啓蒙 (マイボケア)、点眼、内服、食事などに関するエビデンスの紹介 (マイボトリートメント)、国際的にも話題の最新の治療機器について自験データをふまえながらご紹介させていただく予定である。最後に、日常診療でよくみられる疾患なのに診断に苦慮した症例や治療困難だった症例を提示し、会場のみなさんと検討会形式で MGD 診療への考え方を深めたい。

(分担)

- ① (司会: 森重 直行) マイボーム腺診断の国際的トレンドをまとめる。マイボーム腺の機能と形態に基づいた MGD の診断、**Demodex** の診断の重要性など (担当: 有田玲子 15 分+質疑応答 5 分, 白川理香 5 分+質疑応答 2 分)
- ② (司会: 森重 直行) マイボーム腺治療の国際的トレンドをまとめる。(具体的方法とその効果, 多施設研究の結果紹介、最新の治療機器の紹介と自験例のデータ紹介) (担当: 高静花 12 分+質疑応答 3 分, 森重直行 8 分+質疑応答 2 分)
- ③ (司会: 鈴木崇) MGD ケーススタディ (担当: 川島素子、崎元暢、30 分)
- ④ (司会: 鈴木崇) 総合討論 (8 分)

(得られる結果, 達成目標)

本インストラクションコースでは従来から行われている診療の有用性を確認するとともに、さらに一歩進んだ最新の治療、診断機器の有用性や現時点での問題点などを紹介する。具体的に症例の写真、ビデオを用いてわかりやすく解説する予定である。一般臨床の現場でよく遭遇するが診断、治療が困難だった症例をケーススタディとして紹介することで会場のみなさまと活発に討論し、MGD 診療に対する理解を深める。